

報告書 (インタラクティブ物質科学・カデットプログラム共催セミナー・シンポジウム)

阪大院生五者 知の横断 (後援: 大阪大学全リーディングプログラム・高大接続オフィス)

日時: 2016年7月10日(日) 13:00~19:00 場所: 基礎工学国際棟

プログラム

<院生トーク>(13:00~16:55)

森川高典・D2「究極の小型エネルギー変換！～高性能単分子熱電素子の実現をめざして～」

関屋弥生・D1「海を渡った”ニッポン”の芸能～能楽の海外公演について～」

立川恭平・D1「アンドロイドサイエンス」

伊藤駿・M2「学校は誰のための場所なのか～誰もが共に生きる社会を目指して～」

山本健太郎・D1「オートファジーから細胞内世界を見る」

<ゲストトーク>(17:00~18:00)

大竹文雄 先生 (社会経済研究所 教授)

「暮らしに役立つ経済学」

<研究室見学>(18:10~18:40)

基礎工学研究科 石黒研究室



関屋さんの講演風景



立川さんの講演風景

主催した学生から

大学院生間の交流、そして高校生などへのアウトリーチ活動の二つを目的として本会を開催しました。院生トークでは生命・ロボット・単分子・教育・能楽の5つのテーマで、大竹先生からは経済学の講演がなされました。すべての講演が高校生や分野外の学生にとっても非常にわかりやすく、また質疑応答による議論は活発に行われ、主催者として嬉しく思っています。

参加者は86人で、そのうち高校生が23人(大阪、京都、兵庫、愛知)参加しました。高校生からは「自分の視野がぐんと広がった。」「院生の喋りがとても面白かった。」といった、良い評価をいただきました。一方で、「質疑の時間を多くとってほしい」といった意見も多くいただきました。今後はそれらの意見をもとにして改善し、より良い会を開催したいと思います。

(理学研究科 小林研究室 D1 秦徳郎)